

未来の 収穫祭 2025



丸亀市・HOT サンドルフプロジェクト実行委員会

丸亀市

HOT サンドルフプロジェクト実行委員会

未来の
収穫祭
2025

目次

はじめに……	P 1
会長あいさつ……	P2
滞在先の島々……	P3~P7
プロジェクトの様子……	P8~P19
作品紹介……	P20
・本島……	P21~P27
・広島……	P29~P35
・小手島……	P37~P41
・手島……	P42~P46
制作にあたって……	P48~P53
参加者一覧……	P55
奥付……	P56



HOTサンダルプロジェクトは、香川県丸亀市の離島に美術大学生が滞在し、制作活動に取り組む事業です。アートによる島の活性化、若手芸術家の制作活動支援および文化芸術の推進を目的として、2012年から実施しています。

13回目を迎えた2025年は、本島、広島、小手島、手島に計11名の学生が滞在しました。瀬戸内海に浮かぶ島々の美しく雄大な自然の中に身を置き、作品を制作したことは、学生たちにとって貴重な経験であり、大切な思い出になったと思います。

また、ワークショップなどの行事を通して、島の方々と学生たちとの交流が深まり、島内に活気が生まれ、実りあるプロジェクトとなりました。

島での滞在の様子、学生が制作した作品をご紹介します。

丸亀市・HOT サンダルプロジェクト実行委員会



2025年度「HOT サンドルプロジェクト」が無事に全日程を終え、ここに作品集を刊行できることを大変嬉しく思っております。

本年度も全国の美術大学生たちが瀬戸内の多島美に包まれた本島・広島・小手島・手島に滞在し、島の方々との交流を重ねながら制作に励みました。

島の方々とのワークショップでは「讃岐のり染体験」を行い香川の伝統文化に触れる貴重な時間を共有いたしました。島での作品発表会では、武蔵野美術大学日本画学科の間島秀徳教授をお招きし、対話しながら作品を鑑賞しました。また、まちなかギャラリーでの展覧会「未来の収穫祭 2025」オープニングイベントでは、卒島生が講師の対話型鑑賞会や日本画のワークショップに市民の方々にご参加いただき、学生たちの瑞々しい感性に触れていただくことができました。

島で過ごした日々の中で、学生たちが何を感じ、どのような想いを込めて制作したのか。これらの作品には、それぞれの島への敬意と愛情が詰め込まれています。作品を通じ、丸亀の離島の豊かな魅力と、若きアーティストの挑戦を感じ取っていただき、皆様の心に温かな灯をともしすことを願っております。

島々が直面する課題は少なくありませんが、アートが架け橋となり、伝統や文化が次世代へと受け継がれていくお手伝いができれば幸いです。

最後になりましたが、開催にあたり温かく学生たちを迎え入れて下さった島民の皆様、そして関係者の皆様の多大なるご支援に心より感謝申し上げます。

HOTサンドルプロジェクト実行委員会会長 正木 かつみ

滞在先の島々



本島 Honjima

昭和9年、国立公園として第1次指定を受けた瀬戸内海国立公園の中にあつて、備讃海域に点在する塩飽諸島の中心島。豊臣秀吉以来、自治権を安堵（あんど）されていた人名（にんみょう）制度の中心島で、人名から選出された4人の年寄によって政治が行われ、江戸時代は天領として明治維新まで人名の自治が続きました。幕末に太平洋を渡った咸臨丸の乗組員として活躍したのも塩飽の人たちです。

島は、信長、秀吉、家康からの朱印状や古文書も蔵するかつての塩飽水軍の政所で、国の史跡である「塩飽勤番所跡」など歴史・文化財の宝庫。

昔のままの集落が残る笠島地区は、重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

2013年からは、瀬戸内を舞台とした現代アートの祭典「瀬戸内国際芸術祭」の会場の一つとなり、歴史と文化の融合するアートの島としても知られています。



▲笠島まち並保存地区



▲塩飽勤番所跡

広島 Hiroshima

丸亀港の北12.5kmの海上にあり、その名のとおり塩飽諸島の中で最大の面積の島です。戦国時代末期、長宗我部（ちょうそかべ）氏に敗れた落人が住みついたのが始まりとされ、本島と同じく人名の島でもありました。

丸亀港からの定期船が着く江の浦は、白い砂浜が美しく広がっています。島の南部には塩飽諸島の最高峰である王頭山（312m）がそびえ、山頂からは瀬戸内海が一望できます。

また、広島は良質の石材産地として知られ、中でも「青木石」（花崗岩）は有名です。島のいたるところで採石場跡を見受けることができ、現在も稼働する採石場からは石を割る響きが島の風物詩の一つとなっています。2019年にせとうち備讃諸島をテーマとする「石の島のストーリー」が本島とともに日本遺産に認定されました。



▲迫力ある採石場



▲尾上邸

小手島 Oteshima

丸亀港の北 15 kmの海上に浮かぶ小さな島です。豊かな自然環境に囲まれ、漁業が盛んです。

一本の木に紅白の花が入り混じって咲く桃の木が至る所に植えられており、源氏の白、平氏の赤にちなんで源平桃と名付けられ、春には美しい風景が見られます。

また、島のあちこちには島の方々が制作したアートが点在し、まるでアート作品のような島の風景とともに、島を訪れる人達を出迎えてくれています。



▲春に咲く源平桃

▲高台からは塩飽の島々が一望

手島 Teshima

丸亀港の北 21 kmの海上に位置し、平家の落人により集落ができたと言われている島です。左手を広げたような形に見えることが島名の由来と言われ、本島と同じく人名の島でした。

香川本鷹と呼ばれる唐辛子が特産品で、初夏に白く可憐な花を咲かせた後には、青い実をつけ、やがて8月から9月にかけて真っ赤に色づきます。

2024年の改修工事でより快適になった宿泊施設の手島自然教育センターでは、バーベキューやキャンプなどを楽しむこともできます。

また、島の西側に位置する西浦海岸からの夕陽は絶景です。



▲特産品の唐辛子「香川本鷹」

▲西浦海岸からの夕陽

プロジェクトの様子

入島式

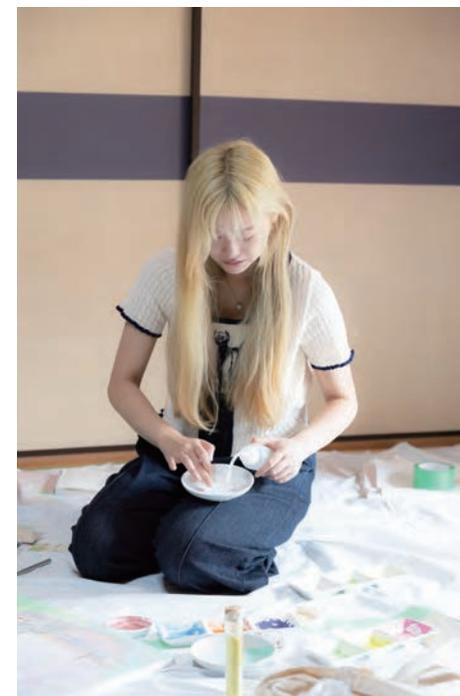


ワークショップ 〈讃岐のり染体験～トートバッグをつくろう～〉

場所：本島コミュニティセンター、広島コミュニティセンター



制作の様子



作品発表会 場所：本島コミュニティセンター、広島コミュニティセンター

<本島>



場所：手島自然教育センター



<広島>



卒島 卒島式 場所：まちなかギャラリー



作品展覧会設営 場所：まちなかギャラリー



作品展覧会「未来の収穫祭 2025」 場所：まちなかギャラリー



作品展覧会オープニングイベント（アートでワイワイおしゃべり鑑賞会・日本画であそぼう）



本島

Honjima



作品介绍





武蔵野美術大学

高尾 爽奈 Sayana Takao

左：「満ちるわたしは」 200×200 キャンバス、水干絵具、岩絵具

右上：「海は砂糖みたい」 70×70 キャンバス、水干絵具、岩絵具

右下：「ヒトデが欠けていくように」 242×410 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、貝殻





女子美術大学

玉野井 里美 Satomi Tamanoi

左：「core」 606×500 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、墨

右上：「島のリズム」 90×420 板、水干絵具、岩絵具 右真ん中：「めぐる」 90×420 板、水干絵具、岩絵具、墨

右下：「浜」 90×420 板、水干絵具、岩絵具、墨



多摩美術大学

ム シスミ Mu Shisumi

左：「several trees III」 652×652 麻紙、水干絵具

右：「On the Edge II」 652×910 麻紙、水干絵具

広島 Hiroshima





東北芸術工科大学

金城 海夏人 Minato Kinjo

左：「光の粒」 257×182 高知麻紙、パステル

右：「黒い屋根の家」 318×410 高知麻紙、パステル、岩絵具、胡粉、墨、青木石





金沢美術工芸大学

松隈 桃子 Momoko Matsuguma

左上：「日盛り」 140×180 土佐麻紙、水干絵具、岩絵具 左下：「たわむ」 220×333 土佐麻紙、水干絵具、岩絵具、盛上胡粉

右上：「朝凧」 135×263 土佐麻紙、水干絵具、岩絵具、盛上胡粉 右下：「白雨」 455×333 土佐麻紙、水干絵具、岩絵具



多摩美術大学

Mari (横尾 麻里 Mari Yokoo)

左：「青木海岸 夕日Ⅰ」 242×333 Oil pastel on pastel paper

右上：「青木海岸 夕日Ⅱ」 242×333 Oil pastel on pastel paper

右下：「青木海岸 夕日Ⅲ」 242×333 Oil pastel on pastel paper

小舟島 Oteshima





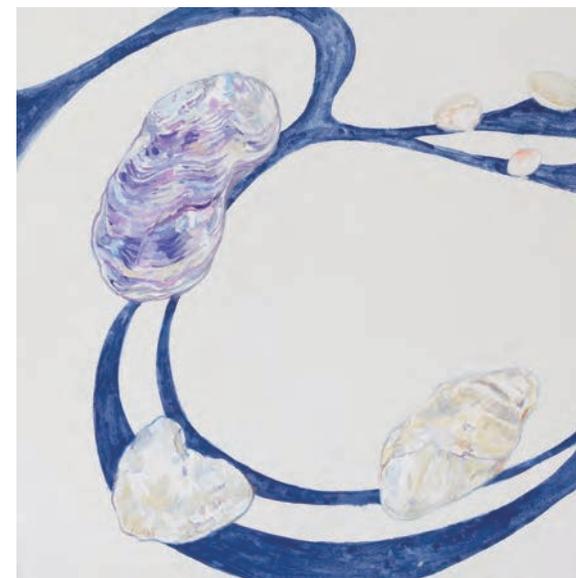
東北芸術工科大学

栃山 野乃花 Nonoka Tochiyama

左：「うちうみ」 500×650 高知麻紙、水干絵具、岩絵具、パステル

右上：「うみのおくりもの」 410×410 高知麻紙、水干絵具、岩絵具、胡粉、色鉛筆

右下：「Luster」 380×455 高知麻紙、水干絵具、岩絵具、胡粉、色鉛筆





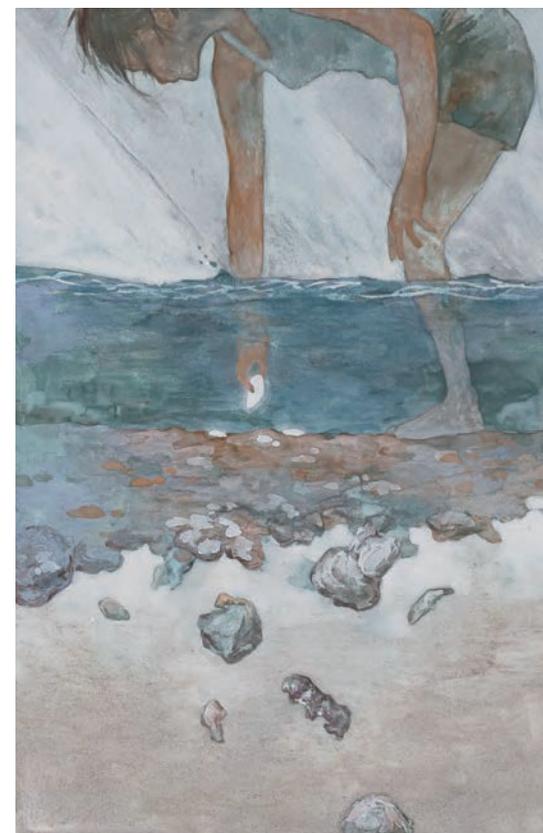
武蔵野美術大学

薬師寺 翔子 Shoko Yakushiiji

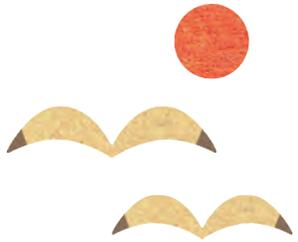
左：「見守る」 273×220 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、色鉛筆

右上：「透明な気配」 364×515 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、色鉛筆

右下：「みつけた」 333×220 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具



十島 Teshima



東北芸術工科大学

たていし ちより (立石 千和 Tateishi Chiyori)

「リラックスリラックス」 910×1167 鳥の子紙、水干絵具、岩絵具、胡粉、コーヒー

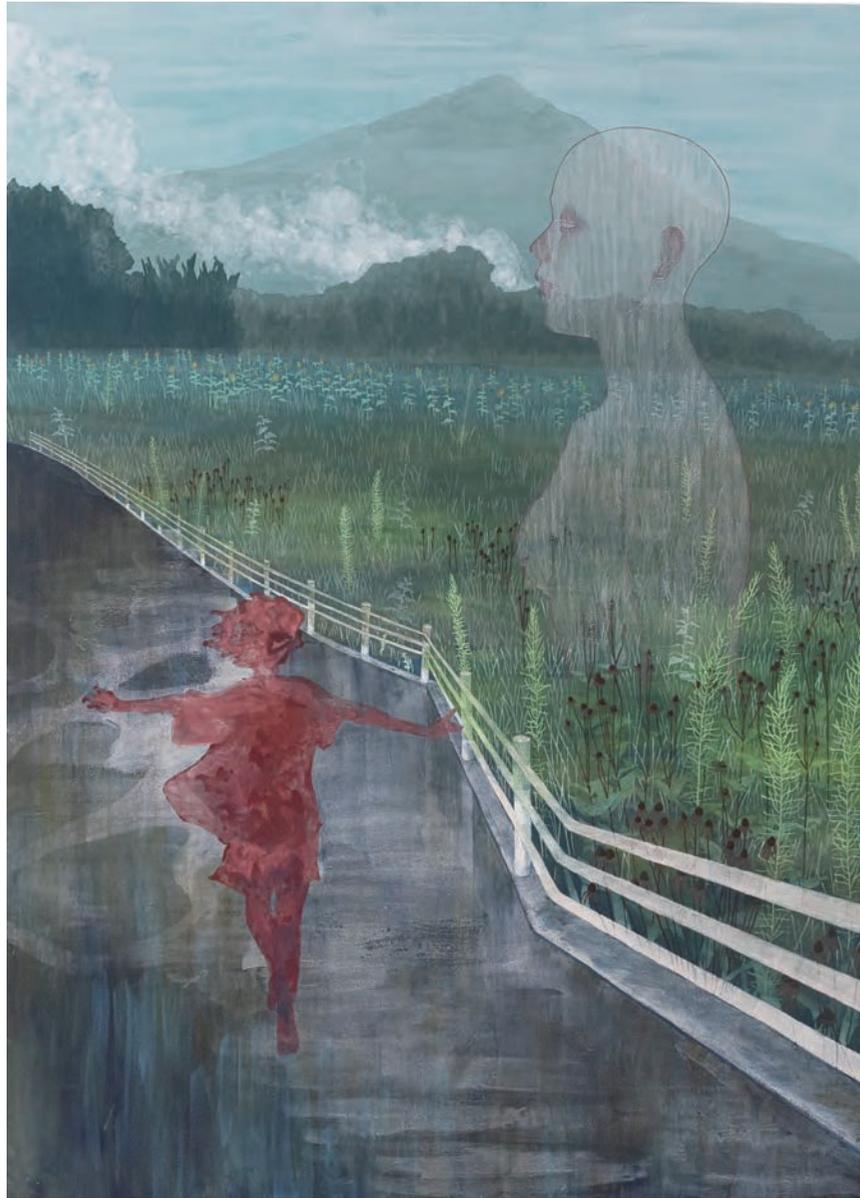


武蔵野美術大学

松田 侑大 Yudai Matsuda

左：「魅力伝」 606×910 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、胡粉、純銀箔

右：「緑の太陽」 180×100 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具



女子美術大学

三浦 知栞 Chihiro Miura

「まざる」 1000×727 雲肌麻紙、水干絵具、岩絵具、胡粉



● 高尾 爽菜（本島）

『満ちるわたしは』

本島で生活する中で自然と沢山触れ合うことができました。本島での自然の中で過ごし、それによってめいっぱい満たされた姿を表現しました。

『海は砂糖みたい』

最初、島へ向かうフェリーに乗ったときに見た船から出る泡が、「おいしそう、砂糖みたい！」と思ってそれを描きました。でも砂糖じゃなくて塩かもしれません。

『ヒトデが欠けていくように』

本島の砂浜で初めてヒトデをみました。そのヒトデは手足がちぎれていて、それを含めて描きたいとおもい、本島の海で拾った貝殻をくわいて貼り付けました。私にとって本島での生活は逃避行みたいな夢のような世界でした。それをもとにこの絵は描きました。

● 玉野井 里美（本島）

『core』

本島の民家で暮らしていて、偶然見つけた構図を絵にしました。歴史的な建物と美しい自然の重なりは、本島の暮らしの中心であり、最大の魅力だと感じます。

『島のリズム』

壁に移った瓦の影に独特なリズムを感じました。規則的に並んでいるけれど、よく見ると瓦のひとつひとつに小さなゆらぎが見えるのが魅力です。

『めぐる』

本島で歴史を重ねた白い壁に、新しい生命の緑が侵食していたのが印象的でした。まだまだ伸びてゆきそうな蔓を、印象のままに切り取った作品です。

『浜』

本島で拾った貝殻の複雑な色に魅力を感じ、制作しました。普段は気に留めないような目立たない貝殻も、よく見ると複雑な色を含んでいます。

● ム シスミ（本島）

『several trees III』 『On the Edge II』

実際に見たことのある実景を基に、記憶の中の視覚情報をフィルタリングし、外部世界における共通の領域を抽出することで、非具象的かつ、開放的な画面で元の客体を再構築する。

● 金城 海夏人（広島）

『光の粒』

夜の海で猪に怯えながら防波堤に座っていたら、波止場の街灯が水面に映っていた。黒い水面の上できらきらと光が揺らいでいて火花みたいだった。

『黒い屋根の家』

瓦屋根が格好の良い家だった。入り組んだ構造をしていて、人の気配がなかった。少しずつ、自然に還っていくような予感がした。

● 松隈 桃子（広島）

『日盛り』

とても綺麗に晴れた日でした。澄んだ空気に満ち、島と海の色が目飛び込んでくれた喜びを大切に描きました。

『たわむ』

池の水がたわんで模様ができる。ほとりに生えた木の枝もたわんでゆるやかに曲がる。違う物だけど、いっしょに穏やかに動いて互いに響き合っているようでした。絵の中が円満に調和するように制作しました。

『朝凧』

曇りの朝、海を見に行ったときのスケッチから制作しました。厚い雲と波のない海が、全て青色に見えたのが印象的な日でした。

『白雨』

雨が降り、使われていない建物が更に陰るのに対して、生き生きと新たな蔓をのばす藤の明るさに目が留まりました。描きたいと強く思いスケッチを始めたのをよく覚えています。激しい雨の中でも葉が輝いて機嫌が良さそうな藤と対話しながら描きました。

● Mari（横尾 麻里）（広島）

『青木海岸 夕日 I』 『青木海岸 夕日 II』 『青木海岸 夕日 III』

私たちの宿舎は島の西側にあり、夕日がとても美しいです。しかし、太陽はあつと言う間に沈んでしまいます。その儚い一瞬をとどめるように線を引き、沈みゆく太陽と染まってく空と戯れるような感覚でした。

● 栃山 野乃花（小手島）

『うちうみ』

タイトルには瀬戸内海の「内海」と、心の内にある海の2つの意味があります。

『うみのおくりもの』

浜辺を歩いていると、素敵なのがたくさん落ちています。海流に乗って色んな場所から形を変えながら集まって来たものが自分の目の前にあるということを考えながら描きました。

『Luster』

太陽の光が海の波がつくる面のひとつひとつに映っている風景を何度も見ました。目に焼き付いたその光の形を思い出しながら描きました。

● 薬師寺 翔子（小手島）

『見守る』

広島に遊びに行ったときに見つけたお地藏様を描きました。きっと島民の皆さんから愛され、島中を見守ってきたのだらうと思います。人々の記憶の片隅に残るような存在感を描きました。

『透明な気配』

家の半分が壊れ室内の様子が露わになっていた小手島の空き家からは、かつてこの家に暮らしていた方の生活をそのまま感じられ、印象に残りました。もう使われなくなった家から漂う切ない空気感を表現しました。

『みつけた』

小手島の浅瀬を歩いているとき、水面の光を受けて白い貝殻が光っているように見え、その美しさを描きました。自分だけのたからものを見つけた時のような、少しワクワクした特別な気持ちでした。

● たていし ちより（立石 千和）（手島）

『リラックスリラックス』

島でのリラックスした生活がそのまま形にできて嬉しい。島では色々なものから波を感じた。削られた岩肌から、酔っ払った感覚から、とても楽しかった。

● 松田 侑大（手島）

『魅力伝』

手島に滞在して、私は様々な魅力を肌身で感じることができました。山や海といった自然に限らず、島民の人々との交流もその一つでした。島で感じた魅力をまとめ、再構築して描いた作品です。

『緑の太陽』

日の入り方によって手島の豊かな自然は深々としたみどりをみせてくれます。そんな時太陽に照らされる向日葵と、影に浸っている山々の対比が美しく感じてこの作品を制作しました。

● 三浦 知葉（手島）

『まざる』

島生活のはじめ、雨が降っていました。雨のなかを散歩していると、島が見渡せる高台に着きました。

白ける遠くの景色。山にまわりつく霧。木々を焼く煙。枯れた黒い植物。そっぽを向くひまわり。雨の匂い。たくさんの大きな自然の景色が私を呑み込まんとしました。

その瞬間、島と一体になれた気がしました。



HOT サンドルフプロジェクト 2025 参加者

本島	広島	小手島	手島
・高尾 爽菜	・金城 海夏人	・栃山 野乃花	・立石 千和
・玉野井 里美	・松隈 桃子	・薬師寺 翔子	・松田 侑大
・ム シスミ	・横尾 麻里		・三浦 知栞



未来の 収穫祭 2025

HOT サンドルプロジェクト作品展覧会 ～ 未来の収穫祭 2025 ～ 作品図録

制作発行：丸亀市・HOT サンドルプロジェクト実行委員会

illustration&design：SAAYA MASAKI

撮影：株式会社夢工房

印刷：有限会社 細谷印刷所

HOT サンドルプロジェクト HP：<http://www.hot-sandal.com/>

